



レイヤ4～レイヤ7リソース プールの設定

- [レイヤ4～レイヤ7リソース プールについて \(1 ページ\)](#)
- [外部およびパブリック IP アドレス プールについて \(2 ページ\)](#)
- [外部レイヤ3ルーテッドドメインおよび関連付けられた VLAN プールについて \(2 ページ\)](#)
- [OSPF 外部ルーテッド ネットワークの概要 \(3 ページ\)](#)
- [GUI を使用してレイヤ4～レイヤ7リソース プールのための IP アドレス プールを作成する \(3 ページ\)](#)
- [GUI を使用したレイヤ4～7リソース プールのダイナミック VLAN プールの作成 \(4 ページ\)](#)
- [GUI を使用して、レイヤ4～レイヤ7のリソース プールのために外部ルーテッドドメインを作成する \(4 ページ\)](#)
- [レイヤ4～レイヤ7リソース プールで使用するレイヤ4～レイヤ7デバイスの準備 \(5 ページ\)](#)
- [レイヤ4～レイヤ7リソース プールで使用するレイヤ4～レイヤ7デバイスの APIC 設定の検証 \(5 ページ\)](#)
- [デバイス管理ネットワークとルートの構成 \(6 ページ\)](#)
- [レイヤ4～レイヤ7リソース プールの作成 \(6 ページ\)](#)
- [GUI を使用したレイヤ4～レイヤ7リソース プールの設定 \(8 ページ\)](#)

レイヤ4～レイヤ7リソース プールについて

レイヤ4～レイヤ7リソース プールは、レイヤ4～レイヤ7サービス デバイスの展開に関し、関係する設定をまとめます。関連する設定がパッケージとしてまとめられるので、レイヤ4～レイヤ7サービス デバイスを展開するための Cisco Application Centric Infrastructure (Cisco ACI) Windows Azure パック統合などのような、オーケストレーション レイヤで使うことができます。

外部およびパブリック IP アドレス プールについて

Cisco APIC リリース 3.0(x) 以前で作成されたレイヤ4～レイヤ7リソース プールの場合、パブリック IP アドレス プールと外部 IP アドレス プールは全く同じものであり、単に外部としてマークされているだけです。Cisco APIC リリース 3.1(x) 以降で作成されたレイヤ4～レイヤ7リソース プールの場合、これら2つのタイプのアドレス プールは分けられており、区別されます。外部 IP アドレス プールは、レイヤ4～レイヤ7デバイスの外部インタフェースおよび L3Out SVI の IP 割り当てのために使用されます。VPC を通してファブリックに接続するレイヤ4～レイヤ7デバイスの場合、L3Out の設定のために3つの IP アドレス (サイド A のプライマリ IP アドレス、サイド B のプライマリ IP アドレス、およびセカンダリ IP アドレス) が消費されます。一方、ポートチャネルとシングルインターフェイス接続の場合、2つの IP アドレス (プライマリ IP アドレスおよびセカンダリ IP アドレス) を消費します。

パブリック IP アドレス プールは、ダイナミック NAT の IP アドレスの割り当て (テナント VRF ごとに1つ)、ロード バランサ、仮想 IP アドレス (テナント EPG ごとに1)、およびその他のパブリック NAT IP アドレスを割り当てるために用いられます。

2つの IP アドレスのタイプを分けることにより、Cisco APIC 管理者は、次のことを行えます。

- IP プールの中でパブリックとマークされている IP アドレスだけをエクスポートします。デバイスレベルのインターフェイス IP アドレスを隠すことができます。
- パブリック IP アドレス プールの IP アドレスのさまざまなブロックに対し、アドレスを取得して、共通のテナント L3Out で利用可能になったときに段階的に追加を行えます。

外部レイヤ3ルーテッド ドメインおよび関連付けられた VLAN プールについて

外部 L3Out ルーテッド ドメインは、レイヤ4～レイヤ7デバイスの内部および外部コネクタの両方にL3Outをプロビジョニングするために使用されます。これらのL3Outは、トラフィックが Cisco Application Centric Infrastructure (Cisco ACI) ファブリックの外部から発信すること、および Cisco ACI ファブリック内部のリソースに到達することを可能にします。また、L3Outs は、トラフィックが Cisco ACI ファブリックの内部から発信すること、および Cisco ACI ファブリックの外部に到達することも可能にします。L3Outルーテッドドメインに関連付けられる VLAN プール内の VLAN は、レイヤ4～レイヤ7サービス デバイスが接続されている特定のリーフまたは VPC リーフスイッチ ペアに対して一意のものである必要があります。レイヤ4～レイヤ7サービス デバイスが複数のリーフまたは VPC リーフスイッチ ペアにわたるものである場合、この制限はそれらのリーフまたは VPC リーフスイッチ ペアにも及びます。



-
- (注) いったんレイヤ4～レイヤ7リソース プールが使用されたら、VLAN ブロックを再設定したり、VLAN プールから削除したりするべきではありません。拡張が必要な場合は、現在の VLAN ブロックに VLAN ブロックを追加できます。
-

VLAN プールのサイズについては、次の考慮点が:

- 外部 IP アドレス プールごとに、1 つの VLAN がダイナミックに割り当てられます。
- レイヤ4～レイヤ7リソース プールにアクセスする、テナント仮想フォワーディングおよびルーティング (VRF) ごとに、1 つの VLAN がダイナミックに割り当てられます。
- 外部ルーテッドドメインおよび関連付けられている VLAN プールは、レイヤ4～レイヤ7リソース プール全体にわたって使用できます。

OSPF 外部ルーテッド ネットワークの概要

外部ルーテッドネットワークの設定についての情報は、次の URL のテナントネットワークの外部の *Cisco APIC* レイヤ3 を参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/application-policy-infrastructure-controller-apic/tsd-products-support-series-home.html>

GUI を使用してレイヤ4～レイヤ7リソース プールのための IP アドレス プールを作成する

次の手順では、いずれかの GUI モードを使用して、レイヤ4～レイヤ7リソース プールのための IP アドレス プールを作成します。

ステップ1 メニューバーで、**Tenants > Common** を選択します。

ステップ2 **Navigation** ウィンドウで、**Tenant Common > IP Address Pools** を選択します。

ステップ3 **Work** ウィンドウで、**Actions > Create IP Address Pool** を選択します。

ステップ4 **Create IP Address Pool** ダイアログボックスで、必要に応じてフィールドに入力します。

Address Ranges には、ゲートウェイアドレスを含めないでください。ゲートウェイアドレスは、レイヤ4～レイヤ7デバイスの外部 L3Out のセカンダリ IP アドレスとして使用されます。これはパーベイシブゲートウェイになります。

例:

- **Name**—**ExtIPPool1**
- **Gateway Address**—**132.121.101.1/24**
- **Address Block**
 - **From**—**132.121.101.2**
 - **To**—**132.121.101.200**

ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。

GUIを使用したレイヤ4～7リソース プールのダイナミック VLAN プールの作成

次の手順では、GUI モードを使用して、レイヤ4～レイヤ7のリソース プールのためにダイナミック VLAN プールを作成します。

ステップ1 メニューバーで、[Fabric] > [Access Policies] を作成します。

ステップ2 [Navigation] ウィンドウで、[Pools] > [VLAN] の順に選択します。

ステップ3 [Work] ウィンドウで、[Actions] > [Create VLAN Pool] の順に選択します。

ステップ4 [Create VLAN Pool] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します。

- a) [Allocation Mode] ボタンでは、[Dynamic Allocation] をクリックします。
- b) [Encap Blocks] テーブルで、[+] をクリックします。
- c) [Create Ranges] ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します:
 - [Range] フィールドに、目的の VLAN 範囲を入力します。
 - [Allocation Mode] ボタンでは、[Inherit alloc mode from parent] をクリックします。
- d) [OK] をクリックします。

ステップ5 [Create VLAN Pool] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。

GUIを使用して、レイヤ4～レイヤ7のリソース プールのために外部ルーテッド ドメインを作成する

次の手順では、GUI モードを使用して、レイヤ4～レイヤ7のリソース プールのためにダイナミック VLAN プールを作成します。

ステップ1 メニューバーで、[Fabric] > [Access Policies] を作成します。

ステップ2 [Navigation] ウィンドウで、[Physical and External Domains] > [External Routed Domains] を選択します。

ステップ3 [Work] ウィンドウで、[Actions] > [Create Layer 3 Domain] を選択します。

ステップ4 [Create Layer 3 Domain] ダイアログボックスで、次に指定されている点を除き、必要に応じてフィールドに入力します。

- a) [Associated Attachable Entity Profile] ドロップダウンリストでは、すべてのレイヤ4～レイヤ7サービスデバイスの接続先となっている、アタッチ可能なエンティティのプロファイルを選択します。
- b) [VLAN Pool] ドロップダウンリストでは、レイヤ4～レイヤ7リソース プールのために作成したダイナミック VLAN プールを選択します。
- c) [Security Domains] テーブルで、必要なセキュリティ ドメインを追加します。

ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。

レイヤ4～レイヤ7リソース プールで使用するレイヤ4～レイヤ7デバイスの準備

レイヤ4～レイヤ7デバイスの物理接続を設定するには、デバイス内のポートチャネルまたはVPC設定に関して、各デバイスごとに適切な設定ガイドを参照してください。



- (注) コンテキスト認識である ASA55xx ファイアウォールデバイスについて、パス設定は特定の物理 ASA55xx のすべての ASA コンテキストの間で整合性がある必要があります。異なるインターフェイスを使用して ASA コンテキストを設定することは、この設定では許可されていません。

レイヤ4～レイヤ7リソース プールで使用するレイヤ4～レイヤ7デバイスの APIC 設定の検証

次の手順では、レイヤ4～レイヤ7リソースプールで使用するレイヤ4～レイヤ7サービスデバイスの Cisco Application Policy Infrastructure Controller (Cisco APIC) 設定を、GUI モードを使用して検証します。

ステップ1 メニューバーで、**Tenants > Common** を選択します。

ステップ2 [Navigation] ウィンドウで、**Tenant *tenant_name* > Services > L4-L7 > Devices > ASA_or_NetScaler_logical_device_name > concrete_device_name** を選択します。

ステップ3 **Work** ウィンドウで、**Policy** タブを選択します。

ステップ4 [インターフェイス (Interfaces)] テーブルで、少なくとも2つのインターフェイスがあり、それぞれがファブリック内の検証パス (ポート、ポートチャネル、vPC) にマッピングされていることを確認します。

ステップ5 ASA または NetScaler ごとに、**Cluster > consumer** インターフェイスと **Cluster > provider** インターフェイスの両方が定義されていることを確認します。NetScalers が内部のロード バランシングで使用される場合

でも、そのような設定は、テナントがプライベートおよびパブリック両方の IP アドレス ロード バランシングで NetScaler を使用することを許可するようにします。

ステップ 6 HA 設定では、クラスターインターフェイスごとに 2 つの具体的なインターフェイスがあることを確認します。これにより、各ポート、ポートチャネル、vPC が正しく設定されます。

デバイス管理ネットワークとルートの構成

レイヤ4～レイヤ7デバイス上で管理ルートを構成し、直接アウト オブ バンドとなっているデフォルトのルートを削除する必要があります。

次の例では、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (Cisco APIC) の NX-OS スタイル CLI を使用して、ASA ファイアウォールの管理ルートを構成します:

```
apic1(config)# route management 10.24.24.0 255.255.255.0 172.0.0.1
```

次の例では、Cisco APIC の NX-OS スタイル CLI を使用して、デフォルトのルートを削除します。

```
apic1(config)# no route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.0.0.1
```

次の例では、Citrix NetScaler CLI を使用して、NetScaler アプリケーション配信コントローラ (ADC) のロード バランサの管理ルートを構成します:

```
> add route 10.24.24.0 255.255.255.0 172.0.0.1
```

次の例では、Citrix NetScaler CLI を使用して、デフォルトルートを削除します:

```
> rm route 0.0.0.0 0.0.0.0 172.0.0.1
```

レイヤ4～レイヤ7リソース プールの作成

GUI を使用したレイヤ4～レイヤ7リソース プールの作成

次の手順では、GUI モードを使用してレイヤ4～レイヤ7リソース プールを作成します。いったんリソース プールに、テナントで使用するためのさまざまなコンポーネントを割り当てると、その後でリソース プールを変更することはできません。IP アドレス ブロックの追加、VLAN ブロックを追加して、ASA ファイアウォールまたは Citrix NetScaler などの論理デバイスの追加などの、メンテナンス タスクは実行できます。

ステップ 1 メニュー バーで、[Tenants] > [Common] を選択します。

ステップ 2 [Navigation] ペインで、[Tenant Common] > [Services] > [L4-L7] > [L4-L7 Resource Pools] を選択します。

ステップ 3 Work ウィンドウで、Actions > Create L4-L7 Resource Pool を選択します。

ステップ 4 Create L4-L7 Resource Pool ダイアログボックスで、下記で指定している項目を除き、必要に応じてフィールドに入力します:

- a) **Private IP Address Subnet** フィールドで、内部デバイス インターフェイスの IP アドレス、内部 VIP アドレス、および内部 L3Out IP アドレスに使用されるサブネットを入力します。
- b) **External IP Address Pool** ドロップダウンリストで、サービス グラフとデバイス全体で使用される IP アドレスの動的な割り当てに使用される IP アドレス プールを選択します。必要に応じて新しい IP アドレス プールを作成できます。**Connect Type** では、**L3 External Network**を選択します。
- c) **Public IP Address Pool** テーブルで、NAT IP アドレッシングと VIP アドレッシングで使用される IP アドレスの動的な割り当てに使用される IP アドレス プールを選択します。必要に応じて新しい IP アドレス プールを作成できます。**Connect Type** では、**L3 External Network**を選択します。
- d) **External Routed Domain** ドロップダウンリストで、このレイヤ4～7リソース プールで使用するために作成した外部ルーテッドドメインを選択します。必要に応じて新しい外部ルーテッドドメインを作成できます。
- e) **外部ルーテッド ネットワーク** テーブルで、テナントが利用できる外部ルーテッド ネットワークを追加します。

最初の外部ルーテッド ネットワークは自動的に `Default` とマークされます。現時点では、デフォルトのルーテッド ネットワークのみが使用されます。
- f) **L4-L7 Devices** テーブルに、このレイヤ4～レイヤ7リソース プールの一部となるレイヤ4～レイヤ7デバイスを追加します。

ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。

NX-OS スタイル CLI を使用したレイヤ4～レイヤ7リソース プールの作成

このセクションでは、NX OS スタイルの CLI を使用してレイヤ4～レイヤ7リソース プールを設定するコマンドの例を示します。

ステップ1 コンフィギュレーション モードを開始します。

```
apic1# configure
```

ステップ2 テナント共通の設定モードを開始します。

```
apic1(config)# tenant common
```

ステップ3 レイヤ4～レイヤ7リソース プールを指定します。

```
apic1(config)# l4l7 resource-pool <resource pool name>
```

ステップ4 リソース プール バージョンを設定します。

```
apic1(config-resource-pool)# version normalized
```

(注) バージョンは次のとおりです。

- **クラシック** : Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 3.1(1) より前に作成されたリソースプールの場合。
- **正規化** : Cisco APIC リリース 3.1(1) 以降に作成されたリソースプールの場合。

ステップ5 リソース プールにレイヤ4～レイヤ7デバイスを関連付けます。

```
apicl(config-resource-pool)# l4l7-cluster Dev-ASA-4
apicl(config-resource-pool)# l4l7-cluster Dev-MPX-4
```

ステップ6 リソース プールに外部 IP アドレス プールとして IP アドレス プールを関連付けます。

```
apicl(config-resource-pool)# address-pool mininetExtPoolL3Ext 13-external
```

ステップ7 (正規リソース プール) リソース プールにパブリック IP アドレス プールと IP アドレス プールを関連付けます。

```
apicl(config-resource-pool)# public-address-pool mininetPubPoolL3Ext 13-external
```

ステップ8 外部ルーテッド ドメインに関連付けます。

```
apicl(config-resource-pool)# external-routed-domain L3ServicesDom
```

ステップ9 リソースプールのプライベート IP アドレスのサブネットを設定します。

```
apicl(config-resource-pool)# subnet 192.168.254.1/24
```

ステップ10 共通テナントで L3Out EPG に関連付けます。

```
apicl(config-resource-pool)# l3out vpcDefaultInstP default
```

GUIを使用したレイヤ4～レイヤ7リソース プールの設定

リソース プール内のレイヤ4～レイヤ7リソース デバイスの設定

レイヤ4～レイヤ7デバイスをレイヤ4～レイヤ7リソース プールに追加する



(注) 専用 VLAN は、L3Out がテナントのため、そのプライベート VRF 内で作成されるたびに消費されます。レイヤ3 ドメインに関連付けられているダイナミック VLAN プールは、リソース プールに追加されるデバイスに適合できるように、付加的な VLAN の追加を必要とする場合があります。

新しいレイヤ4～レイヤ7デバイスは、いつでもリソースプールに追加することができます。

ステップ1 メニューバーで、[Tenants]>[Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、[Tenant Common]>[Services]>[L4-L7]>[L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソースプールの、[Navigation] ウィンドウに、[L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 デバイスを追加するレイヤ4～レイヤ7リソースプールをクリックします。

ステップ4 [Work] ウィンドウの **L4-L7 Devices** タブをクリックします。

ステップ5 **L4-L7 Devices** テーブルで、プラスのアイコン (+) をクリックします。

Create An L4-L7 Device ダイアログが表示されます。

ステップ6 **Device** ドロップダウン矢印をクリックして、レイヤ4～レイヤ7デバイスを選択します。

ステップ7 [送信 (Submit)] をクリックします。

レイヤ4～レイヤ7デバイスをレイヤ4～レイヤ7リソースプールから削除する

リソースプールは、設定されたレイヤ4～レイヤ7デバイスが利用可能でない限り、どのテナントも使用できません。レイヤ4～レイヤ7デバイスが割り当てられておらず、どのテナントにもエクスポートされていない場合には、次の手順を実行します:

ステップ1 メニューバーで、[Tenants]>[Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、[Tenant Common]>[Services]>[L4-L7]>[L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソースプールの、[Navigation] ウィンドウに、[L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 削除するデバイスが含まれているレイヤ4～7リソースプールをクリックします。

ステップ4 作業ウィンドウで、**L4-L7 Devices** タブをクリックします。

ステップ5 削除するレイヤ4～レイヤ7デバイスをハイライトして、**trashcan** のアイコンをクリックします。

確認用のダイアログが表示されます。

ステップ6 [はい (Yes)] をクリックして削除を確認します。

リソースプールの外部IPアドレスプールの設定

レイヤ7リソースプールにレイヤ4への外部IPアドレスプールの追加

リソースプールが使用中の場合には、外部IPアドレスプールもテナントで使用されているので、削除や更新は行わないでください。

外部 IP アドレス プールをレイヤ4～レイヤ7リソース プールから削除する

ステップ1 メニュー バーで、[Tenants] > [Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、[Tenant Common] > [Services] > [L4-L7] > [L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソースプールの、[Navigation] ウィンドウに、[L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 外部の IP アドレス プールを追加するレイヤ7リソース プールにレイヤ4 をクリックします。

ステップ4 [Work] ウィンドウの **Basic** タブをクリックします。

ステップ5 外部 IP アドレス プール テーブルで、プラス記号アイコンをクリックします (+)。

外部 IP アドレス プール フィールドが表示されます。

ステップ6 **Connect Type** ドロップダウン矢印をクリックして **L3 External Network** を選択し、その他の **External IP Address Pool** フィールドに適切な値を入力します。

(注) フィールドの説明については、右上隅のヘルプアイコン ([?]) をクリックしてください。

ステップ7 [更新 (Update)] をクリックします。

外部 IP アドレス プールをレイヤ4～レイヤ7リソース プールから削除する



- (注)
- リソースプールが使用中の場合には、外部 IP アドレス プールもテナントで使用されているので、削除や更新は行わないでください。
 - IP アドレス プールの枯渇に対応するために外部 IP アドレス プールの削除、追加、または更新を行う場合には、大規模な IP アドレス プールの追加や削除は行わないでください。これらの状況では、レイヤ3 ドメインや L3Out と似た構成の、新しい外部 IP アドレス プールを伴うレイヤ4～レイヤ7リソース プールを作成します。
 - 外部 IP アドレス プールが設定されていないと、テナントはリソース プールを使用できません。

ステップ1 メニュー バーで、[Tenants] > [Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、[Tenant Common] > [Services] > [L4-L7] > [L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソースプールの、[Navigation] ウィンドウに、[L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 削除する外部 IP アドレス プールを持つレイヤ4～レイヤ7リソース プールをクリックします。

ステップ4 作業ウィンドウで、**Basic** タブをクリックします。

ステップ5 **External IP Address Pool** テーブルで、削除する外部 IP アドレス プールをクリックしてハイライトし、**trashcan** アイコンをクリックします。

確認用のダイアログが表示されます。

ステップ6 [はい (Yes)] をクリックして削除を確認します。

リソースプールのパブリック IP アドレス プールの設定

パブリック IP アドレス プールをレイヤ4～レイヤ7リソース プールに追加する



- (注)
- Cisco APIC Release 3.0(x) 以前で作成されたレイヤ4～7リソース プールの場合、外部 IP アドレス プールがパブリック IP アドレス プールとして使用されます。いったんテナントで使用されたら、変更してはなりません。
 - Cisco APIC リリース 3.1(x) 以降で作成されたレイヤ4～レイヤ7リソース プールの場合、いつでも新しいパブリック IP アドレス プールをリソース プールに追加できます。
 - パブリック IP アドレス プールが設定されていないと、テナントはリソース プールを使用できません。

ステップ1 メニューバーで、[Tenants] > [Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、 [Tenant Common] > [Services] > [L4-L7] > [L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソース プールは、 [Navigation] ウィンドウに、 [L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 パブリック IP アドレス プールに追加するレイヤ4～レイヤ7リソース プールをクリックします。

ステップ4 作業ウィンドウで、 **Basic** タブをクリックします。

ステップ5 **Public IP Address Pool** テーブルで、プラスのアイコン (+) をクリックします。

Public IP Address Pool フィールドが表示されます。

ステップ6 **Connect Type** ドロップダウン矢印をクリックして **L3 External Network** を選択し、その他の **External IP Address Pool** フィールドに適切な値を入力します。

(注) フィールドの説明については、右上隅のヘルプアイコン ([?]) をクリックしてください。

ステップ7 [更新 (Update)] をクリックします。

パブリック IP アドレス プールをレイヤ4～7リソース プールから削除する



- (注)
- Cisco APIC Release 3.0(x) 以前で作成されたレイヤ4～7リソース プールの場合、外部 IP アドレス プールがパブリック IP アドレス プールとして使用されます。いったんテナントで使用されたら、変更してはなりません。
 - Cisco APIC Release 3.1(x) 以降で作成されたレイヤ4～7リソース プールの場合、いずれかのテナントが現在 IP アドレス プールを利用している場合、リソース プールから IP アドレス プールを削除してはなりません。
 - パブリック IP アドレス が設定されていない場合、リソース プールはどのテナントからも利用できません。

ステップ1 メニューバーで、[Tenants] > [Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、 [Tenant Common] > [Services] > [L4-L7] > [L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソース プールは、[Navigation] ウィンドウに、 [L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 削除するパブリック IP アドレス プールが含まれているレイヤ4～7リソース プールをクリックします。

ステップ4 [Work] ウィンドウで、 [Basic] タブをクリックします。

ステップ5 [Public IP Address Pool] テーブルで、 削除するパブリック IP アドレス プールをクリックしてハイライトし、 [trashcan] のアイコンをクリックします。

確認用のダイアログが表示されます。

ステップ6 [はい (Yes)] をクリックして削除を確認します。

レイヤ4～レイヤ7リソース プールの外部ルーテッド ドメインの更新

外部ルーテッド ドメインが設定されていないと、テナントはリソース プールを使用できません。

ステップ1 メニューバーで、 [Tenants] > [Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、 [Tenant Common] > [Services] > [L4-L7] > [L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソース プールは、[Navigation] ウィンドウに、 [L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 更新する外部ルーテッド ドメインのあるレイヤ4～レイヤ7リソース プールをクリックします。

ステップ4 [Work] ウィンドウで、[External] タブをクリックします。

ステップ5 [External Routed Domain] ドロップダウン矢印をクリックして、レイヤ3 ドメインを選択します。

ステップ6 [送信 (Submit)] をクリックします。

レイヤ4からレイヤ7リソースプールの外部ルーテッドネットワークの更新

外部ルーテッドネットワークが設定されていない場合、リソース プールはどのテナントでも使用できません。

ステップ1 メニューバーで、[Tenants]>[Common] を選択します。

ステップ2 [Navigation] ペインで、[Tenant Common]>[Services]>[L4-L7] >[L4-L7 Resource Pools] を選択します。

リソースプールの、[Navigation] ウィンドウに、[L4-L7 Resource Pools] の下のドロップダウンリストとして表示されます。

ステップ3 更新する外部ルーテッドネットワークがあるレイヤ4からレイヤ7のリソースプールをクリックします。

ステップ4 [Work] ウィンドウで、[External] タブをクリックします。

ステップ5 [External Routed Networks] テーブルから、プラスアイコン ([+]) をクリックします。

[External Routed Networks] フィールドが表示されます。

ステップ6 [External Routed Networks] フィールドに適切な値を入力します。

(注) フィールドの説明については、右上隅のヘルプアイコン ([?]) をクリックしてください。

ステップ7 [更新 (Update)] をクリックします。

レイヤ4からレイヤ7リソースプールの外部ルーテッドネットワークの更新

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。